

室内
表示

HALDiS



人間の視覚用実・高輝度表示システム



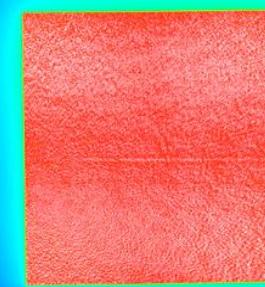
OTA-カメラHILSテストベンチ

35000nits 表示

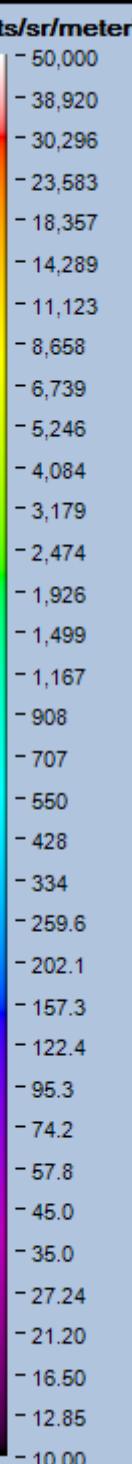


測定してみてください。

35000nits 表示



測定してみてください。

Watts/sr/meter²

50,000

38,920

30,296

23,583

18,357

14,289

11,123

8,658

6,739

5,246

4,084

3,179

2,474

1,926

1,499

1,167

908

707

550

428

334

259.6

202.1

157.3

122.4

95.3

74.2

57.8

45.0

35.0

27.24

21.20

16.50

12.85

10.00

Watts/sr/meter²



ランプ設計デザインの輝度および色を1対1スケールで表示
グラフィック・エフェクトを使用しない設計評価へ

「OTA-HiLS_HDRカメラ」のビジュアル機能
夜間や高コントラストシーン検証
現実世界に忠実な室内カメラの性能テストへ

人間の視覚機能をフル活用したディスプレイ
グレアと黒の限界まで
ノンフィクションのイメージを超える、自然美を際立たせる！



測光現象に忠実



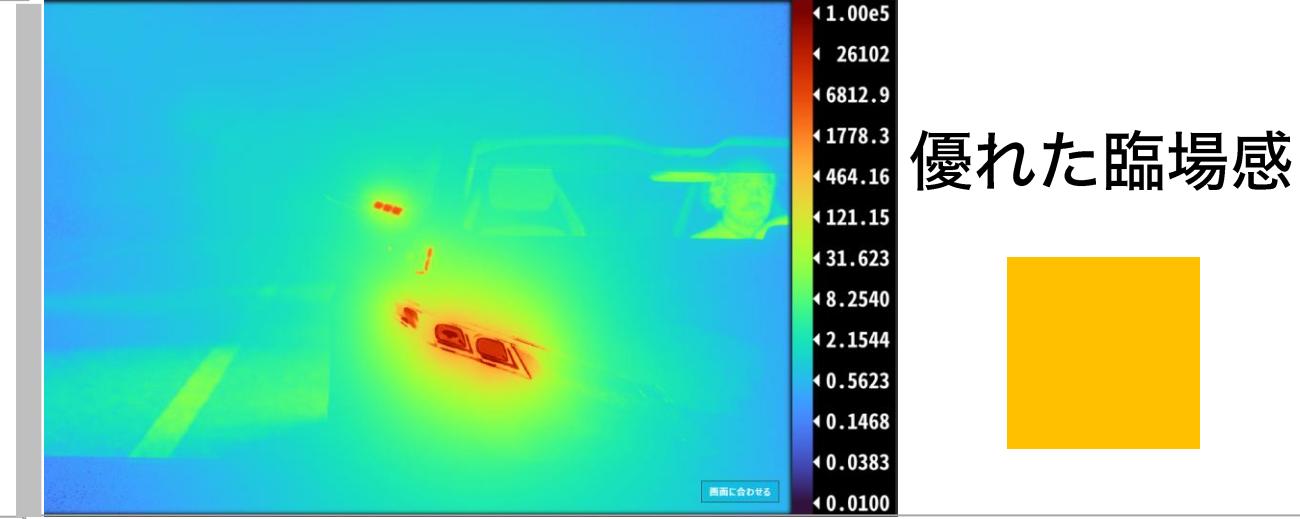
市販ディスプレイでは、ランプの正確な明るさを画面表示することができない。

現状は、ディスプレイの物理的制限を補うため、グラフィック・エフェクトが使用されている。これは、カメラが明るい光を暗い光より強く映し出すことにヒントを得ている。明るい光は白に近づき、光源の周りに光輪が現れることがある。

しかし、グラフィック・エフェクトは現実世界の現象ではない。このエフェクトは、制御できない多数の要因に依存し、コントロールできないデザイン解釈認識へと向かう。

HALDiS™は、デザイナーとエンジニアが計画、設計した通りの明るさと色で、ランプを正確に投影できる。

まぶしさによる最終的な影響は、スクリーンではなく目に現れることにより、客観的な評価が可能になる。



優れた臨場感



市販ディスプレイでは、カメラ（都市や交通の夜間のシーンを分析する目的で使用）が正確に読み取り、分析できる夜景を画面上に表示することはできない。

唯一の解決策は、危険とコストを伴う現地での夜間テスト実施である。この現地テストは再現性が担保されず、次のテストで変化する要因が常に存在するため、テスト対象のシステム性能の結論を導き出すことが難しい。

HALDiS™は、カメラが夜のシーンを撮影できる。なぜなら、実際の輝度、色、コントラストをそのまま再現できるからである。100万対1のコントラスト比でも再現可能である。

室内試験のすべての利点（再現可、自動、24時間体制）を備えている。グレアやフレアが発生した場合、現場で発生するのと同様に室内でも、カメラレンズに発生する。



優れた没入感



既存のディスプレイ技術、いわゆるHDRまたは「高輝度」ディスプレイは、ABL（自動輝度制限）というブラックボックス機能が搭載されており、視聴環境や視覚能力に適したピーク輝度や画面の輝度範囲を正確にコントロールできない。

映画館のイメージ基準の継承は、視覚能力の使用を限定的なものにとどめる。これは、監督が創作するフィクション世界に没入する際には問題にならないかもしれない。

LED(OLED、QLED)スクリーンやヘッドアップディスプレイ(HUD)など革新的なテクノロジーは、最大輝度が限られており、画質を完全に制御することが難しい。よって人間の視覚能力を満足させるものにならない。

HALDiS™は、現実世界が映し出す画像を楽しむことができる。遠い過去や宇宙空間などでも。

自然の美しさなど、ノンフィクションの画像を映し出せる。

